

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



家具と味噌で有名な府中市に存する府中市分教会。

「府中」の由来は大化の改新に遡り、東京の府中市(武蔵府中)、安芸郡府中町(安芸府中)と区別して「備後府中」とも呼ぶ。明治維新以降、福山・深津・小田・岡山の各県に編入され広島県に落ち着いたが、その後、芦田郡府中市村・同府中町・芦品郡府中町を経て府中市となった。

立教 180年
9月号

おやさど
学生生徒修養会
高校の部 受講
 8月9日〜15日

立教180年「学生生徒修養会・高校の部」は8月9日から15日まで親里で行われ、全国各地の道につながる高校生928人が受講し、笠岡からは5人が受講した。

今回は、一人でも多くの高校生がおちばで学び、より多くの友とつながる機会をつくることを目的として、受講回数を問わず、学年別に組とプログラムを編成して実施された。

各班に分かれた受講生たちは、男女一人ずつの班付きカウンセラーのサポートのもと、教えを学び、共に語り



本部神殿へ向かう受講生

合い、友情を深めて、感謝の心を育んだ。
 (写真は天理教HPより転載)

学修を終えて

富士分教会 藤井教太

自分は、学修に行くまでは天理教のことがあまり好きになれませんでした。しかし、学修へ行ってみると自分と同じ悩みを持つ人がいる事を知って、自分だけじゃない、心強い仲間がいるんだと思いました。講師の先生の授業や、朝と夜のお話はいろいろと自分にあてはまることもあって考え直す機会になりました。学修で天理教の事を学び、これまででつらかった時期もあつたけど、今思えば笑話にしかないアと、前向きにとらえる事ができました。

学修に参加して、天理教の教えの良さを感じています。また、学修のお陰で接しやすいお道の友達が増えました。来年も参加して、もっと天理教が好きになりたいです。

全国「my friend」が

大教会 岡崎一真

学生生徒修養会を終えて思ったことは、班のみんなと友情の輪を広げることが出来たし、女子とも話せたしワークショップでは協力することが出来たと思います。

夜の挨拶での点呼では、正直きつかったし、大きい声の出し過ぎで喉が痛かったです。

最初は見知らぬ同士が集まり、会話もなかったのですが、段々慣れてくると、夜は、恋話とかをしました。

学校では、ハシワラ(走って・笑って・一手一つ)とワークショップで、班員と協力出来たと思います。

学修期間中に2人の身上者がたため、神殿へ回廊ふきと、お願いづとめをしに班別タイムのときに行きました。みんなで息を合わせてすることが出来たと思います。

僕は、もともとコミュニケーション力が無かったのですが、この学修を通して、コミュニケーション力を向上させることができました。また全国に「my friend」が出来た事で、学修に行って良かったとしみじみ思うことができました。

あらかじりよう
入門塾 開催
 8月16日 大教会
青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、8月16日に高校生層を対象に、「あらかじりよう入門塾」を開催し、高校生2人が参加した。

開講式では、大教会長様が「陽気くらしとは人と人との間に実践する事であり、人たすけを通して神様に喜んで頂きましょう」と話された。その後、青年会委員と会員の2人が、感話を行い、自身の信仰について語った。



青年会室でのねりあい

また、青年会本部作成の創立100周年に向けたDVD視聴や、親睦を深めるゲームなどの時間をもたれ、参加者は青年会員としての自覚を新たにしました。



高校生2人を10人で世話取りした

よふぼく勉強会開催 テーマは「出直しについて」

8月月次祭後

育成掛

育成掛(中島誠治主任)は8月21日、大教会8月月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催した。今回のテーマは「出直しについて」。

講師の渡邊眞次品治分教会前会長は「お道では死ぬことを出直しと教えられています。身は親神様からのかりもの。いつかお返ししなければならぬ。それは古い着物を脱いで新しい着物に着替えるようなもの。死ぬこと、出直しは人生の一番大きな節、それは非常に辛い、悲しいものではありませんが、またそれは再生するためのもの、残された者は決して何時までも悲しまないで、今有る人生をお互いにいんねん果たし、親神様への御恩報じに人をたすける心で懸命に通り返しましょう」と話された。

また先生の母親の信仰について「6



「出直し」について

人の子供を育てながら26年間、二代会長としておたすけの道を通られたこと」を話された。「出直すこと、それは生まれ変わりの出換わりしての陽気ぐらしへの歩み、心を引き締めて通りましょう」と付け加えられた。

そして、「出直しについて」教祖の逸話篇、おさしづ、天理教教典、元の理からも引用された。

先生自身が、今まで1万回以上のおさづけを受けられ親神様・教祖の御恩をいっばいに授かったことも話され、もし自身が出直し生まれ変わった時には、一歩成人した姿で皆様にお目にかかりたいと話を結ばれた

おやさとお

後継者講習会始まる

第1次には13人が参加

教会本部主催の後継者講習会(全25次)がスタートし、第1次(8月28日から30日)には、笠岡から13人が受講した。

「日々の陽気ぐらしの実践」をテーマ



陽気ぐらしの実践について話し合う受講者

マに開催されている講習会。受講者は、講義やクラスミーティング、感話などを通して、教えに基づく生き方を学んだ。また、最終日には、真柱様よりお言葉を頂いた。

全プログラム修了後、詰所で受講者の集いが開かれ、大教会長様のお話の後、会食をしながら受講の感想を述べ合った。その中には、受講に対して消極的であったが、受講してみても自分を見つめ直し、人たすけをしたいと思つたなど、充実した感想が多く聞かれた。

(写真は天理教HPより転載)

第19回野外錬成会
兼わかぎ錬成会
開催される少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)のサマーキャンプが、笠岡大教会を会場に8月22日から23日の1泊2日の日程で開催されました。このキャンプは、火・水・風の親神様の御守護を肌を感じると共に、たすけあいを実践し、そこに喜びと感謝を体得する、少年会員の育成を目的に実施された行事です。

今年少年会員31人、育成会員17人と例年より多くの参加者でした。

初日は開講式、入村式、オリエンテーションを済ませた後に、皆で協力してテント設営。初めての子もいる中、育成会員の指示のもと、わかぎをリーダーに、たすけあいの精神で無事に組み立てました。昼食は本部班の準備したカレーを食べて、その後、心待ちにしていたプールへ。水の冷たさを存分に味わい、暑さを吹き飛ばすようにはいしゃいでいました。夕食は自分達の食べるお米を飯ごう炊きさんしてバーベキュー。火を起こす子、お米を研ぐ子、



みんなで楽しいキャンプの準備

食器の準備をする子と、それぞれに役割分担。無事にご飯も炊き上がり、普段とはひと味もふた味も違う夕食を堪能しました。夕食後はおつとめ、そしてキャンプの醍醐味キャンプファイヤー。燃え上がる火を囲んで、育成会員による歌やゲームで盛り上がり、班ごとに一芸を披露。はにかみながらも、班の仲間と共に場を盛り上げました。1日の終わりにテントで就寝。いつもと違う環境や、友達がまわりにいるこ

とで、ついつい夜更かしをしてしまう子もちらほらと。

二日目は朝のおつとめ後、朝食作り。前日の経験を活かしての飯ごう炊きさんは手際良く済ませ、お味噌汁も作りました。自分達で味付けした味噌汁の味は、多少しょっぱくても、薄くても格別なもの。朝の腹ごなしも終えて、全員で協力して撤収作業。キャンプの終わりが近づいているのを感じ少し寂しくもありました。撤収後は、大教会の広大な敷地内を存分に使ったウォークラリー。このキャンプを通して仲良くなった仲間達と、和気藹々(あいきあい)と身体を使ったゲームや、クイズをクリアしていききました。班ごとに競い合った白熱のウォークラリーの後は昼食。本部班の準備したサンドイッチを美味しくいただきました。そして閉講式を神殿で行い、1泊2日のサマーキャンプの全行程を無事に終了しました。

1泊2日と、例年より短い日程でしたが、大きな事故、病気や怪我もなく、皆、元気に親神様の御守護のもとお連れ通りいただきました。ありがとうございしました。また御協力頂きました皆様方、誠にありがとうございました。来年も笑顔あふれる子供達に会えるの



手作りの食事で皆な満足です

を楽しみにしています。
 (少年会委員 岡崎 治喜)



9月3日 久松分教会にて

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、8月27日から9月3日までを、全分会布教推進週間とし、各教会、ブロックで活動を展開した。活動内容は、神名流し、リーフレット配り、路傍講演、戸別訪問、施設でのひのきしんなど様々。青年会のスローガン『親孝行、夫婦仲良く陽気ぐらし』に相応しく、家族での参加が多く見られた。

全分会布教推進週間 開催

8月27日～9月3日

青年会



8月28日 松江駅前にて路傍講演



9月3日 久松分教会神名流し

婦人会笠岡支部(上原きよ代支部長)は、9月3・4の両日、詰所宿泊者・大教会信者室用の毛布襟付けひのきしんを大教会講堂を中心に各部屋で行った。3日は参加者全員でおつとめを勤めた後、毛布襟付けひのきしんを始めた。4日も朝9時半よりひのきしんを始め昼頃終了した。参加者は3日55人、4日57人の計112人で勇み心一杯に取り組んだ。2日間で詰所用520枚、大教会用40枚、計560枚の毛布に清潔な襟が付けられた。

毛布襟付けひのきしん

9月3日・4日

婦人会



毛布襟付けひのきしん

- 笠岡の教友が選ばれ掲載されてしまったので転載いたします。(敬称略)
- ▼『天理時報』
- ▽8月27日付「時報俳壇」
 - ・備中◎ 塩飽利子ねむいさん
 - 一川に影を映して合歓の花
 - ▽9月10日付「時報歌壇」
 - ・海松ヶ岡◎ 池田広子さん
 - うぐいすの声から蟬と入れかわり洗濯物も乾きが早い
- ▼『陽気』誌9月号「道柳」より転載。
- ▽佳 詠
- ・東悠◎ 田林美智子さん
 - 代々の道徳んで今の感謝みち
- ▼表紙写真
(吉岡輝昭かさおか編集部員)

こころの詩

タンザニア 訪問記③



芳井分教会長夫人
佐藤和代



左からアンさん・デニス・グラディー

▼デニスの姪

5月31日デニスの家に行った。アナさんというおばあちゃんがいつも元気に迎えてくれる！私も3度目である。

いつものように話をしておさづけを取り次がせてもらい、そこへいた姪のグラディーと「病気の知人はいないか。」と話した。

去年グラディーは私も日本へ行きたいといい、「バスで何時間かかるの？」と聞いてきた。覚えていたのでその話題を出すと恥ずかしそうにしていた。1年しかたないはずなのに、彼女はとても大きく成長しているように感じられた。

それからデニスと彼女は何やら話をし、知り合いの病気の人の家を案内してくれるようだ。

「地元の人しか行けない場所で少し危険なところ！大丈夫か？」とデニスが聞いてきた。

「大丈夫」とみんな答え、志郎先生、孝君、私とデニスたちについていった。

途中歩く道は、今までの道端に大きな穴が開いているとかというようなものとは雰囲気は異なり、どんどん地元の貧しい人々の生活しているエリアに入っていくように感じられていった。

川には先日降ったスコールの後の濁った水が流れ、曲がった川の淵には、生活ごみや、木切れなどが、よどんだり引つかかったりしていた。スラム街？そんな言葉も頭に浮かんだ！

デニスが途中何か叫んだ。「ワニ？」志郎さんが驚いたように

何か指さして叫んだ先には、1メートルくらいの子供のワニがいた。茂った葦のような草木の辺りに巣があるらしかった。

このあたりに住む人たちは、川沿いの狭く危険な場所に生活しているようで、なぜかデニスは小さい声で説明をしてくれた。途中行きかう人たちがデニスのことは知っているようだったが、歩きながらグラディーが、自分を道側に私を端の方へと歩き位置を交替したりしながら、「ココは危険だから気を付けて」といつてもうすぐ46歳になるおばさんを気遣ってくれた。グラディーは15歳くらい。

「将来はこの人たちを救えるような仕事をした。この人たちは親もいなかったり、貧しかったり、衛生的にもよくない状況に住んでいる。あなたはここに流れている水を見てどう思う？私はきれいではないと思う。政府も何もしてくれない。私はどうにかして変えていきたい。だから一生懸命勉強したい。」

まだ我が子よりずっと幼いグラディーは、純粹にまっすぐ先を見つめて英語で私にずっと話しかけていた。両親のいない友人のこと。貧しい人たちが



ワニのいた川の近くで

の暮らしぶり。自分は将来どういう風にこの人たちをサポートしたいのか？私は単語を拾いながら、大まかな意味を理解するくらいだったため、彼女に申し訳なくて仕方なかったが、彼女を何か支援できないか？という気持ちでいっぱいになった。

デニスとグラディーは、国を超えて神様を信じて人を助けたいとの心でここへ来た私たちをそのまま応援したい。そのためにはどうしたらいい？という気持ちを持っていてくれた。

本当にありがたかった。デニスとグラディーに会って、貧しく自分ではどうすることもできない環境の中で生き

誕生!! 「走るにをいがけ号」

約5年前、タンザニアで最初に用木になったマユンガ氏(8千人の孤児支援NGOコーディネーター)が来日したとき、芳井分教会の車を見て、この車を廃車にする時、孤児院で使いたいので譲ってほしいという要望がありました。なぜなら年式が古くてもディーゼル車はエンジンが強く、未開発の土地でも必要とされるからです。

今年、その約束が実現することとなり、せっかく送らせてもらうなら「天理教」や「笠岡」の文字と絵を書いて送らせて頂こうということになり、芳井分教会長夫人の佐藤和代さんが多忙な中にもかかわらず少しずつ思いを載せた絵を完成させてくれました。

大教会祭典前日、仕上がった車の写真を目にし、この車がタンザニアの地を走り子供たちがこれを取り巻いている姿を想像するだけで、わくわくするような感動を覚えました。8月祭典当日、大教会の中庭にこの車が業者の手によって運ばれお披露目となりました。後日、この業者の方からも、「ただ車を運ぶだけだと思っていたら、この車をアフリカの孤児院に寄付するなんて、ぼれー感動したんじゃ、わしにも何かさせてくれ」と、大教会までの運搬の手間を寄付して下さったと聞かせて貰いました。

この車をタンザニアに送るためには送料が14万8千円掛かります。どうかこの車を届けさせてもらいたいと大教会で寄付を募らせて頂いたところ、9月11日現在で12万1112円の寄付が多くの方々から集まりました。そして9月14日に神戸港から出発することが決定しています。

タンザニアの町を走りながら多くの人達の目にとまり、「Tenrikyo」って?、「Kasaoka Church」って何?と疑問を持ってもらうことが、にをいがけに繋がることと信じ、「走るにをいがけ号」と命名したいと思います。昔、本部青年会から海外へ出発した「あらきとうりょう号」の様な活躍を期待して。

皆さまの真実のお心寄せを有難うございます。(海外部長 上原志郎)



前面と後面に「KASAOKA CHURCH」と入った「走るにをいがけ号」

抜く人々に、彼ら自らが生み出す力で生活力を向上できる方法を、なんとか探していくことの必要性をより一層強

く感じるようになった。

帰国の前日夜、たくさんのことばを

ノートに記した。この気持ちを忘れな
いでいたいと毎回残していることば。
家族への深い感謝の気持ち。毎回の

まっっていくノートが私の心の心よりどこ
ろになっていく。すべてにありがとう。

(完)

第11回大教会長杯親睦大スポーツ大会開催

大教会長様から「笠岡内でブロックを越えた親睦を深める会を開いて貰いたい」という思いで始まったこの大会も、今年で第11回目を迎えます。今年は**10月22日(日)**に行います。今年も、多くの方々が参加出来るよう、1チームに**会長さん、50歳以上の方、女性の方、少年会員**も必ず入るようになっていきます。全ブロック参加、全会参加を目指しています。スポーツに自信が有る無しに関わらず、一人でも多くご参加下さい。尚参加お供えは中学生以上1人500円となっています。当日は**おいしいカレー**が用意されています。

大会スケジュール

8:30までに**茂平グラウンド**に集合

【雨天で**ソフトバレーボール**の場合は体育館を用意しています。

詳細は各ブロック担当者にお尋ねください。】

開会式 遥 拝
大教会長様あいさつ
競技説明
選手宣誓
準備体操

9:15 **プレイボール**
11:00より **昼食**(13:00まで)
15:30 **閉会式** 成績発表
表彰式
挨拶
遥 拝
解散、片付け



詳細は

東	ブロック	-	虫明立生さん(陽 備)
西	ブロック	-	浅野明教さん(ひろさと)
福山	ブロック	-	福島大介さん(福 満)
高屋	ブロック	-	武内清和さん(香地華)
島根	ブロック	-	三代幸徳さん(米 府)
久松	ブロック	-	中村剛史さん(久 松)
上下	ブロック	-	高田一弘さん(眞 府)
府中市	ブロック	-	豊田宏哉さん(府中市)

までお尋ね下さい。



← 茂平グラウンドの場所は、左のQRコードにアクセスし、ネットで検索してください。

運営委員会

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心一杯の御守護によつてまだまだ暑い日が続いておりますが 立秋を過ぎた当たりから朝晩少し虫の音が聞かれるようになり 暑さも和らいで来る事を期待させる季節となりました そんな中処によつては豪雨により被害が出たり日照不足になり作物が生育不十分になる等 心通りの守護であるが故に月日の残念立腹の姿になってしまつてゐる事は大変申し訳ない次第でございます

私共は自らかしものかりものの理を味わうだけでなく 心通りの御守護の世界であることを一人でも多くの人に伝え共に御恩報じの道を歩んで貰えるよう 日々は朝夕に御礼申し上げつたすけ一条のご用の上に努め励まして頂いております

分けても今日の吉日は たすけの元立てたるおつとめを勤める日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで 坐りづとめてをどりを勤めて八月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を樂しみに残暑厳しき中も厭わず寄り集いました道の子供達の 今日に寄せる真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年の子供おぢば帰りに千二百二十六名参加させて頂きました 炎天下の中でございましたが 大きな事故怪我なども無く無事無難にお連れ通り頂き誠にありがとうございました 又英語講習会や学生生徒修養会も結構にお連れ通り頂き有難うございました 今後の育成に繋げさせて頂く所存でございます 更には又今月末より来年三月にかけて本部に於いて後継者講習会が開催されます おぢばでお育て頂く機会を大いに活用すべく参加を促すと共に 自らも育ての意識を持つて声掛けをさせて頂きます 更に又今月末より青年会が布教推進週間を実施致しますが 来月はにをいがけ強調月であり月末は全教一斉にをいがけデーでございますので 普段にも増してにをいがけに励ませて頂きます そしてにをいがけを通しておたすけに繋がせて頂き 親神様教祖により勇んで頂けるよう努めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 旬のご用を通して成人を図りたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護を賜り 親神様教祖を親として 一列兄弟の理に目覚め 万互いに助け合う陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



立教百八十年 八月月次祭 祭典役割表

役割	区分	祭主		扨者		講話
		大教会長様	中島誠治	中村道徳	中村道徳	
地方	坐り勤	吉岡 壽	武内 清	門脇 元教	中村 邦義	吉岡誠一郎
		上原 明	中村 逸	中村 道徳	中尾 正治	
		大教会長様	横山 逸郎	横山 逸郎	虫明 立生	
おつとめ	前 半	上原 繁道	中島 誠治	杉原 博之	上原 浩	吉岡誠一郎
		大教会奥様	武内 正美	谷内 美知子	岡崎 和美	
		田中 ますみ	岡崎 豊子	岡崎 和美	岡崎 和美	
ちやんぽん	後 半	岡崎 真一	浅野 明教	森本 忠善	森本 忠善	世話人・島村廣義先生
		佐藤 道孝	谷内 伸自	赤木 素志	高木 昭祥	
		森本 忠平	内海 史郎	高木 昭祥	高木 昭祥	
拍子木	後 半	三島 渉	山野 弘実	田林 久嗣	田林 久嗣	世話人・島村廣義先生
		中村 義太郎	上原 繁次	山田 敏教	山田 敏教	
		今川 昌彦	佐藤 真孝	岡田 誠	岡田 誠	
すりがね	後 半	今川 昌彦	佐藤 真孝	岡田 誠	岡田 誠	世話人・島村廣義先生
		中村 義太郎	上原 繁次	山田 敏教	山田 敏教	
		今川 昌彦	佐藤 真孝	岡田 誠	岡田 誠	
三味線	後 半	虫明 好美	佐藤 真孝	岡田 誠	岡田 誠	世話人・島村廣義先生
		上原 順子	森本 富美子	三島 照美	三島 照美	
		今川 佐智子	室悦子	室悦子	室悦子	

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

立教180年9月10日終講

新輝豊 杉本 美由希



「よりみち」のみの編集部員で申し訳ない次第です、と思いつつ、さて、さて、さて、今回は何を?????…そうだ先月、卒業後47年5ヶ月ぶりの小学校同窓会の話にしましょう。今年還暦を迎える私達、小学校卒業後、別の中学校に進んだ人達に会いたいね、ということになり地元に残る友達と計画し、卒業生40人の内18人が参加して楽しいひとときを過ごしました。幼いとき同じ教室で過ごした思い出話をする中、今は医者になってる友人と話している、こどもおちば帰りの話になり、本当にたのしかったなあ!とすごく大きな所(天大の講堂)に泊まって、枕なげをして、その枕が破れて、すこ

く怒られたなあと大笑い、その当時、家族で遊園地に行ける様な家庭は無かったから泊4日で連れて行って貰える天理教さんの行事は本当に助かるね、と親も喜んでいたしな!と、奈良ドリームランド・あやめ池遊園地もたのしかったなあ!と話してくれ他の友人も話しに入ってきて、その話で盛り上がりました。戦後12年目に生まれたわたしたちの時代、社長の子どもも、医者の子どもも継ぎ当てをしたズボンをはいて学校に通ってたなあ!と改めて思い出しながらのひとときでした。

最近目は薄くなり、足腰も痛くなったが、あの頃、本当に楽しかったなあ!と話す話の中に、こどもおちば帰りの思い出が話題になったことに本当に嬉しく思いました。今日はこの嬉しかったことのおすそ分けとします。(K・T)



昭和56年 (1981年)

- 2 . 6 大教会承事川合二夫人・摩耶分教会三代会長川合津多恵出直 (七十歳)
 - 2 . 21 本部員野知一先生を迎え論議第三号の本部巡教講話
 - 2 . 21 雅鸞会及び少年会雅楽練習会 (七〇人)
 - 2 . 26 照陽分教会三代会長中村道徳任命 (二代会長中村英夫出直)
就任奉告祭：五月五日
- 真柱 中山 善衛
- 昭和五十六年一月二十六日
- ここに全教一手一つの奮起を要望する。
- とりめが定まり、処の治まる陽気ぐらしを御守護いただける。
- にをいかけ・おたすけこそ、我々の生命であり、至上の使命である。この使命達成の上に、
- をたどり、たすけ一条の真実を積み重ねよう。
- 末代に伝え、広く世界に弘めて、世界一れつの心のふしんを進めよう。日々に教祖のひながた
- 教祖百年祭のまたとない句を迎え、にをいかけ・おたすけに丹精して、教祖の親心を、永く
- と教えられている。
- 九ツ ニこまでついでこい
- 十ド とりめがございました
- 九ツ ニこをさだめぬやうなら
- 十テ ところのをさまりや
- 二下り目
- 二下り目
- みかぐらうたに、

立教144年

ぐろふもがけみちも、心明るく通り抜け、真実の限りを尽くして寄り来る人人を育て、つどめの完成とぎづけの徹底をもって、この世が陽気ぐらしの世界と立て替わるよう図られた。しかるに、親を慕い親を思う子供の情愛は、親に従う事の尊さを承知しながらも、容易には親の道に踏み切れなかった。教祖は、こつした子供の心情を不憫と思召され、定命を縮めて御身をかくされた。

しかしながら、教祖は、姿はかくしても存命で働く、と仰せられ、おことば通り、世界たすけに夜昼の区別なくお働き下されて、その御導きは末代に及ぶ。

刻限に、「ひながたの道を通らねばひながた要らん」と仰せられている。今こそ、全教あげて、御身をかくされてまで世界たすけを急ぎ込まれた親の心に溶け込み、一手一つに互い立て合い、扶け合い、陽気つくめに勇んで、ひながたの道を通らせていただかねばならぬのである。

かねてから、「四方正面鏡やしき」と教えられた教えを、些かなりと形に表したいと、教祖百年祭の句に、東西礼拝場普請を提唱し、心をふしんして教祖にお喜びいただくとうと誓った。心のふしんの進むにつれて形も進み、形のふしんも進み、形のふしんにひのきしんの真実を伏せ込むうちに、心のふしんも一段と進歩。ともに末代つぐきりなふしんである。

おめでさきに、

しんじつにたすけ一ちよの心なら なにゆへいでもしかとうける

(三三三)

と教えられる。

一言のにをいかけは、人の運命を愛える。それは、をやの声を聞く時、心の向きが変わるからである。一度のおたすけは、人の心を入れ替え、無い命をお救けいただく。これは、をやれど、世界を受取るからである。かくて心のふしんは、一人また一人と進み、世界一れつに及ぶ。これぞ、世界のふしんである。

